

柏樹

題字
南 勇 会長
川口市退職校長会
会報 第11号
平成27年6月1日

会長就任にあたって

南 勇



この度平成27年度総会において、淺香正男会長ご勇退の後、会長の大役を拝命いたしました。

もとより浅学非才の身でございますので、役員並びに諸先輩はじめ会員の皆様のご指導ご鞭撻の程、よろしくお願い申し上げます。

創業は易く守成は難し、と言われます。創成の苦しみの中から誕生し、幾多の困難を乗り越え、全員の力で発展させてきた柏樹会は、231名の会員を有する県下最大の会であります。この発展を止めることなく、誠心誠意努力していく所存ですので、皆様の更なるご協力のほどお願い申し上げます。

本会の目的は会員同士が各クラブ・行事等を通して親睦を深めると共に、和気藹々の雰囲気の中から一人ひとり

が生活への意欲とメリハリを持つことにあります。そして、その意欲をもとに子供・学校・地域への支援を、できる範囲で行っていくことです。

現在、子供達は学力はついたものの周囲の環境が複雑になってきていることもあり、厳しい状況に適應する力、社会の中で生きて働く力が脆弱になっています。自助自立の心が弱く、些細なことでもキレる、いじめる。また逆に不登校になる、引きこもる等…。更に、親も子供を育てる親業が不十分で親としての責任を持たず虐待にはしる等々…。

かつて、終戦の焼跡に残ったキューポラから勢いよく流れ出た銑鉄のように、教育への情熱に燃えあがった「川口プラン」は多くの人々の心に志と生きる力をもたらしました。今こそ、子供の心に志を持たせる教育が必要ではないでしょうか。そして、更に何事にも負けない、くじけないという強い気概が加われば、真に生きて働く力となり、まちがいなく子供達は未来の強力な担い手となっていきます。

柏樹会は会員同士の和を大切にし、その和の力をもって、子供達が自分の

志のもとにまっすぐに力強く生きていくけるよう、側面から援助していく所存です。会員の皆様の変わらぬ、ご支援ご協力のほど切にお願い申し上げます。

異文化体験

ベトナム十日間の旅

田賀谷清三



一年一回、海外旅行をするのを楽しみにしている。15人余りのグループ旅行「ベトナム10

日間の旅」(10月30日～11月8日)に妻と一緒に参加した。

飛行場からハノイ市内へ向かう郊外には、青々とした田園風景が広がり、水牛が草を食み、編笠を被った農民が水牛を追ってのんびりと田を耕している。私が子供の頃の日本の田園風景を懐かしく思い出した。

ハノイの市内観光に出て驚いたのは、広い道いっぱい並んで走る自転車とバイクの洪水である。その間を車が縫うように走っている。

ダナン近郊にある古い港町ホイアンを訪れた。16世紀頃から日本の商人が

住み始め、最盛期には10000人ぐらいの日本人が住んでいたとのこと。ベトナムの遺跡の多くが戦争で破壊されたが、ホイアンの木造の家が連なる古い町並みは丁寧に保存され、ユネスコの世界遺産に指定されていた。

ダナン周辺にある国営の刺繍工場を見学した。天井の高い、一見倉庫風の建物の中で、若い男女が40～50人、レシビを見ながら、黙々と刺繍をしていた。5時になると一斉に仕事を止め、別棟の寮に帰って行く。足・腰に障害を持っている人をかばいながら歩いている人が目についた。ベトナム戦争で怪我をした人々であるとのこと。表情が明るく、互いに励まし合い、談笑しながら寮へ向かう姿にベトナムの明るい未来を感じた。

ホーチミン市から国道1号線を南西に行くこと2時間、メコンデルタの入口の町ミトから、メコンクルーズに参加した。メコン川の水の量、川幅の広さに度肝を抜かれた。遙か彼方に工事の大きな橋が見えてきた。日本の政府開発援助により、大成建設が工事を請け負い、まもなく完成すること。国連の中で日本が一番ベトナムの開発に貢献している、と現地ガイドが説明してくれた。10日間の旅ではまだベトナムのごく一部を垣間見た程度で、できればもう一度ゆっくりと日数をかけて旅したいと思った。

柏樹会総会

平成27年5月10日(日)、川口市退職校長会総会が太陽サパールで開催されました。浅香正男会長の挨拶に続き、奥ノ木信夫市長・新海今朝巳教育長・栗原喜一郎顧問・柴田宏之市立校長会長・坂本大典市議会議員の祝辞をいただきました。

議事に入り、事業報告及び計画、決算及び予算が承認されました。また、新会長には南勇先生が選出されました。その後、祝賀会・懇親会が催され、盛会裏のうちに閉会いたしました。

来賓挨拶



奥ノ木信夫市長



新海今朝巳教育長



栗原喜一郎顧問



柴田宏之校長会長



坂本大典市議会議員



瑞寶雙光章受章

おめでとうございます



国井 清先生



相川卓一先生



竹野谷眞雄先生



豊田榮一先生



稲葉昭一先生



角田伸司先生



大川金一先生



市村良恵子先生

ますますお元気で
ますますお祝い
米寿のお祝い

——ちょっといい話——

失われていない日本人の心

伊東和幸

自分の所属している写真研究会(アリス)の撮影会で、羽田空港の近くの城南島公園に行った時の事でした。その日は穏やかな日中で、空港は離陸したり、着陸したりする飛行機で賑わっているところを撮影していました。その後、時間になり、集合場所に行きました。そこで、財布がないことに気がつきました。今まで、現金、クレジットカード、運転免許証、パスモなどをまとめて落としたことがなかったのです、すごいショックを受けました。そして、会の代表の方に財布を落とししたので、先に帰ってくださいるように話しました。それから財布を捜しに入りました。冷静になって、その日の行動を思い出そうとしました。最後に財布を使っ

たのはどこであったかでした。それは、大森駅から乗ったバスの中である事を思い出しました。そこで、バス停に書いてあった営業所に電話をかけました。発車時間を覚えていたので、その時刻とバスの行き先を話しました。担当の方が捜し、あつたら、連絡してくれるように頼みました。でも、それ以外の可能性もあるので、撮影した場所を数度捜したり、撮影していた所にいた人にも聞きましたが、見えないと言う事で、公園の事務所へ届いていないか聞きましたが、届いていませんでした。警察に届けてくださいと言うことで、近くの交番に遺失物届を出しました。

まだ、落ちていないか何回も歩いた後、なかったのが帰りました。家に帰ってすぐにカード、翌日には、免許証の再交付を受けました。これで、一応の手続きを終えました。やるだけのことをやったので、すべてを諦めました。

その翌日のことです。バスの営業所からまさかの電話がかかってきて、えっと思いました。次の日に財布を取りに行きました。そこで、お客さんが拾って届けてくださった事を聞きました。帰宅途中、財布を届けてくださった方の気持ちに熱くなりました。まだ、日本人は大切な心を失っていない事に感動しました。

各部の活動から

俳句の集い

「春緑 日米友好 和やかに
(Spring green and friendship /
United States and Japan /
Nagayakani)」

先日、ホワイトハウスの夕食会に招いた日米政府関係者を前にして披露されたオバマ大統領の英語の俳句です。

かつて、中国の温家宝首相も来日の折の挨拶に、「漢俳」(漢字の俳句)を紹介されましたが、相手国の伝統文化である俳句を前面に出す感性の豊かさ、度量の広さ深さを教えられたのです。

私たちの柏樹会「俳句の集い」は、昭和57年創設の伝統ある句会ですが、先人の意を継承すべき会員数は現在18名。年に4回の例会は、親睦を図り、楽しみながらも句力の向上を目指す場となっております。松本旭先生の添削指導を受けるほか、年度末には手作りの句集、「柏葉」を刊行し、一層の充実を図っています。

並木公民館の秋の文化祭にも参加していますが、作品展示や短冊作りなどにより地域との交流を深めています。

17音の俳句を自由に詠むことは、忙しい日々の私たちに、ゆとりの空間を創り出してくれます。自由な俳句人への途中参加も大歓迎です。(関根要造)

健康教室の活動

健康教室では、毎年二つの事業を実施しています。

6月に調理実習としてヘルシー料理作り。これは9年間続けています。講師を川口市食生活改善推進員協議会長の桜井道子氏に依頼しています。毎年好評で16名が参加。イカと里芋のわた煮、アスパラとチーズの春巻き、油揚げときゅうりの胡麻和えなどを作り、たらしことしそのまぜご飯と共においしく味わうことができました。

10月にはウォーキングを実施。昨年は土呂駅前からさいたま新都心までの約8kmのコースを、途中雨に降られながらも無事歩きとおすことができました。参加者は11名でした。



今年6月に「ヘルシー料理(第10回)」、10月に東浦和からさぎ山自然公園までの約8kmのコースを歩く予定です。

(玉木清一)

視察旅行

国宝と世界遺産の林

昨年は、国宝や世界遺産を見学できる旅となりました。天候にも恵まれ、参加者21名、リリア前を午前8時に出発しました。東北道の羽生インターを降り、バスは、一路、熊谷市妻沼にある日本三大聖天様の一つとして知られている「妻沼聖天山」に向かいました。

現地では、ボランティアガイドさんの説明を聞きながら、本殿周囲の極彩色に満ち溢れた彫刻を見て、時間が経つことをすっかり忘れていました。179年の創建ということで、歴史の重さを感じることができました。

バスは、関越道、上信越道を走り、安中市に入ります。待ちに待った磯部温泉ガーデンホテルでの昼食です。榛名地鶏の釜飯御膳に舌鼓を打ちながら、楽しい会食の時間があっという間に過ぎていきました。

いよいよ、世界遺産の「富岡製糸場」に到着です。明治5年、富国強兵・殖産興業政策のもとに造られた日本で最初の官営模範工場です。繭から生糸を取る繰糸場には、当時、日本で製造が難しかった窓ガラス(フランスから輸入)が使われていました。

帰りは、特に渋滞に遭遇せず、予定通り午後6時頃、リリア前に到着となりました。

(谷口治郎)

文学散歩

秋の文学散歩は暑くなく寒くもなく快適な日和でした。散歩の皮切りは「西郷・勝会見場跡」で思わず聖徳記念絵画館の西郷・勝会見の絵が彷彿としてきました。

散歩の主目的の慶應義塾大学に入るとすぐ、大きなアーチと煉瓦造りの素敵な雰囲気思わずシャッターを切りました。図書館旧館のステンドグラスも豪華でした。建物の中で異色な演説館については「柏樹」第9号に。

次の善福寺は、安政6年、タウンゼント・ハリスがアメリカ公使になった時、公使館になったところで、慶應義塾大学とも縁があり、開山堂の前には福沢諭吉夫妻の墓がありました。



平成26年度 柏樹会文学散歩 三田・麻布界隈 H. 26. 10. 24 (金) 善福寺にて

最後は昼食会(懇親会)で楽しい文学散歩を締めくくりました。佐藤先生をはじめ、幹事の先生方に感謝し、次回も参加させて戴きます。(後藤典夫)

盆栽教室

盆栽は、自然を愛する日本人の優しい心に育まれてきた伝統文化です。絵画や写真と違うところは、生きていう事です。暑い夏などは、一日手を抜けば枯れてしまいます。愛情をこめてその植物の命を守ってやる。そして、手塩にかけて育て上げるのが盆栽です。

昨年度の実技教室は、松竹梅の寄せ植えという事で、10月25日に行いました。今までになく多くの方に参加していただき、それぞれ芸術的センスを発揮して作業を進めました。梅の木を中心にして、松や竹をバランス良く植えて、1時間30分で完成させました。世界に二つとない寄せ植えの作品をめいめい大事に持ち帰りました。

(豊田義則)



ゴルフクラブ

心地よさ一杯のゴルフ

柏樹会への入会とあわせて、「柏樹会ゴルフクラブ」への参加を希望させていただきました。毎年、4回のゴルフコンペのご案内がありますが、これまでは、仕事の都合等で時々の参加となっています。それだけに、参加ができる時は、とても楽しみです。

ゴルフの楽しさは、いろいろあると思いますが、私にとつての楽しさの一つは、広いコースでボールを思いっきり打ったり、変化に富んだコースやグリーンのねらった位置にボールを運んだりすることです。実際のプレーでは、自分の実力通りの結果で、イメージしたことがほとんどできません。しかし、各ホールでのプレーはどれも楽しく、とつても心地よいものとなっています。

それは、「柏樹会ゴルフクラブ」メンバーとプレーをする楽しさがそこにあるからです。諸先輩の皆様から、プレーへのアドバイスや励ましの声をはじめ、楽しい会話をしていただきながらのゴルフだからです。正に、和気藹々、幸せ一杯、心地よさ一杯の一日です。

「柏樹会ゴルフクラブ」の楽しみはまだまだありますが、理事、監事、メンバーの皆様に感謝し、次回のコンペを又、楽しみたいと思っています。

(瀧沢重博)

写真クラブ

初夏の撮影会

武蔵野の面影を色濃く残す、赤塚の丘陵地を活用した赤塚植物園でした。園内は「本園」と「万葉・薬用園」



からなり、「本園」は四季の道、野草の道、香りの散歩道、針葉樹の森などのゾーン、「万葉・薬用園」には、万葉集に詠まれた植物や薬用植物が植えられており、撮影会では自分がそこにいる一瞬の美を撮影することが出来ました。念願の桜の撮影会は、3月下旬「井の頭恩賜公園」へ行きました。公園全体で約500本の桜があり、池の周囲には約250本の桜が雄大に枝を広げています。撮影日和のとっても良い天気でしたが、残念ながら、桜は一分咲き、「花より団子」で飲み放題「お昼宴会プラン」を楽しみました。

今年度は柴又帝釈天、小石川後楽園を計画。気軽にご参加下さい。

(石井 孝)

第10回美術展に参加して

回顧と展望

早いもので柏樹会の美術展も10回目を迎えました。本来ならば大々的に記念行事として立ち上げるべきところですが、経費や作品収集の事情から従来どおりの美術展を継続することになりました。

毎回、作品数は50〜60点。出品者数は30〜40名と続いております。今年度から絵画クラブも誕生しますので、や、増えることも想定されます。

言うまでもなく、この美術展は、優秀を競うような堅苦しいものではなく、誰でも気楽に芸術を楽しみ、親睦を深めることにあります。それが10年も続いていることは、他市の退職校長会では見られない、柏樹会の誇るべき伝統といつても過言ではありません。

絵画、書道、俳句、写真、工芸、手芸、盆栽、各クラブのスナップや出版物など先生方の創作したものならば何でもありで、これは実にユニークでおもしろく、楽しい。

これからあと何年続いていくかわかりませんが、たとえ点数は少なくともこれらの趣味が認知症予防に少しでも寄与し、生きるエネルギーの原動力となってくれるならば、10年継続した意義は図り知れないと思います。

(小川吉之丞)



柏樹会 第40回撮影会 井の頭恩賜公園 平成27年3月26日

釣りクラブ

上から読んでも

下から読んでも「鱧好き」

釣りクラブでは、鱧の船釣り、海浜公園での釣り、旨い魚を食べる会の3つの事業を行っています。昨年は、天候不良により海浜公園での釣りは中止となっていました。他の2事業は多くの参加をいただき、楽しい会となりました。

昨年の鱧の船釣りは、一昨年度まで利用していた鹿浜橋からの船が営業を停止してしまい、平日に葛西から東京湾に出るの鱧釣りとなりました。乗合船を利用しましたが、片側半分は私達の貸切状態でした。天ぷらサイズから20センチオーバーのジャンボ鱧まで大漁でした。私が最下位だったと思いますが、60匹釣り上げました。鱧だけでなくイシモチも釣れました。

その晩の我が家の食卓には、ジャンボ鱧の刺身、鱧の塩焼き、鱧の唐揚げが並びました。ついでに、イシモチの塩焼きも並び、美味しいお酒が飲めました。食べきれない魚は近所の方にお裾分けしました。

さて、例年参加者が多い旨い魚を食べる会は、船代よりも安い費用で美味しい魚が食べられます。昨年は、席の

予約が取れない店だったため、14名の参加者が、6名と8名で別々の席となっていました。本年は、席の予約が取れる店にしようと考えております。釣りに参加されなくても、旨い魚を食べる会に参加されることは大歓迎です。本年度は、鱧の船釣り、旧江戸川でのボートでのハゼ釣り、旨い魚を食べる会の3つの事業を計画しています。多くの皆様方の参加をいただき、楽しい時を共有できることを願っております。

(江川剛)

パソコンクラブ

26年度のパソコンクラブは、情報リテラシーのテキストを使い、ワードを中心に、6月から3月まで18回の活動を行った。テキストを使うので、その通りにパソコンを動かせばよいと思うであろうが、なかなかその通りには行かず、四苦八苦するのが毎回のこと。その都度、指導者の駒崎先生にアドバイスをいただいたり、隣の人や近くの人に訊いて、困難を乗り越えている。クラブの雰囲気は和気藹々であり、パソコンを覚えるのも楽しみであるが、クラブの皆さんの会話も楽しみの一つである。

27度は、個々の取り組みに併せて、



テキストを進めるが、エクセル、メールなど要望に併せて進めて行く予定である。

(龍口喜子)

絵画クラブ発足について

本年度から、絵画クラブを始めるとになりました。

何時でも気軽な気持ちで、日記を書くように描いてみませんか。一日一日が、豊かなものになると思います。基礎的な事から、ゆっくり楽しみながら進めていきましょう。

7月9日(木)、午後2時より、川口市教育研究所(旧芝園小)にて、第1回活動を開始致します。次のものを各自準備下さい。

- ・スケッチブックF4号(水彩用)
- ・(用紙は自分好みの大きさに)
- ・鉛筆B以上、数本
- ・練り消しゴム

(濱口泰巳)

総会・歓送迎会



開会のことば



南 勇新会長挨拶



新会員紹介



訂正

会報10号3ページ「人權教室・出前授業」において、筆者名が安倍保夫とありましたが、正しくは「安部保夫」です。お詫びして訂正いたします。

徳力向上に関する研究

「未来への学びの扉を拓く前川小」
〜学び合い 支え合い
鍛え合う活動を通して〜

川口市立前川小学校長

矢作 信行

本校では、平成25・26年度川口市教育委員会から、「徳力向上に関する研究」の委嘱を受け、思いを込め心豊かに生きる児童の育成に努めて参りました。また、平成26年12月には、優れた地域による学校支援活動推進にかかわる文部科学大臣表彰を受賞しました。こうした、前川小学校の教育活動の様子を以下述べてさせていただきます。

徳力向上に関する研究では、図工科と道徳を窓口に取り組みむこととしました。

図工科では、自らつくり出す喜びを味わい、豊かな表現力で造形活動を楽しむ子を育てるために、多様な表現方法の学習や表現の場の工夫に取り組みました。多様な表現方法追求のため、研究授業を重ねました。特に導入段階でのイメージの持たせ方、木や粘土など素材からイメージを膨らませる表現方法などを研究し、成果もあがりまし



学習の場や表現の場の工夫では、教室や図工室はもとより多目的ルームや校庭の木々の間など、児童がのびのび表現できる

空間を準備しました。また、民間の教育会社やカメラ業者との連携により、改築のために取り壊される校舎に、思い出の絵を伸び伸びと描くことができました。同じ形を用いてのリズム感や1階から3階までつるが伸び、最後に大きな花が咲くという素晴らしい作品もできあがりしました。

道徳では、これまでの主人公の心情を中心とする生き方追求の学習から、資料を通して児童が見つけた疑問や問題を大切に学習展開を考える、テーマ追求型の授業を研究しました。更に、研究を重ねて行く過程で、問題解決的な学習過程についても研究することとしました。問題を自分で見つけ、討論することにより、道徳的判断力を養うことをねらいとしたものであり、いじめ問題解消の一助となると考えます。

前川小学校では、学校応援団・学校

支援ボランティア活動が大変盛んで、多くの方に学校を支援していただいております。登下校の時間帯の立哨指導をはじめ、安心・安全への支援活動が、スクールガードリーダーを中心に、町会・PTAと協力し、見守り活動として、地域ぐるみ行われています。学習支援活動では、家庭科の補助、読み聞かせ、着衣泳、書き初め、年度当初の給食指導等多くの支援活動が行われています。

また、環境支援活動では、PTAが中心となり資源回収を行い、その収益を秋のポプラまつりに児童に還元しています。また、草取りやペンキ塗りなど親父の会(ポプラの会)やOB会(50会)の支援等も頂き、学校環境の整備が行われています。



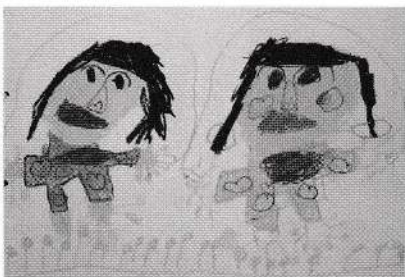
こうした学び合い、支え合い、鍛え合う活動を通して、未来への学びの扉を拓こうと考えています。多くのご支援、多くの愛情に包まれて、地域と共に歩む前川小学校です。これまでの成果を踏まえ、平成27年度は、社会の一員として主体的に学び合う児童の育成を

目指したいと考えています。特に地域との連携教育を考え、シティズンシップ教育の推進を図りたいと考えています。今後も前川小学校への多くのご支援をお願い申し上げます。

編集後記

貴重な体験や柏樹会への思いを込めた原稿を誠にありがとうございます。左の絵は、5歳児が「好きな遊び」をテーマに縄跳びを描いたものです。

私の勤務する保育所の年中・年長クラスは、山田治先生に絵の指導を頂いて10年になります。子供達が毎回心待ちにしている時間です。山田先生のお話に引き込まれ、その日の絵のテーマについて思いを膨らませ、自信をもって一気に描いています。小学校に入学した全ての子供達がこの絵のように、



幼児期の遊びや生活を通して学んだことを最大限に生かし、自信をもって学校生活を送ることを願っています。(野島邦彦)